

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 1月 23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470105184		
法人名	社会福祉法人 広島光明学園		
事業所名	グループホーム光明早稲田		
所在地	〒732-0062 広島県広島市東区牛田早稲田二丁目4番15号 (電話)		
自己評価作成日	令和4年8月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470105184-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年1月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の介護理念でもある家庭的な雰囲気を大切にし、利用者様が安心してゆっくりとくつろげるような場所の提供ができるよう努めています。また、地域の行事などに参加し、地域の方々との交流を積極的に図るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム光明早稲田は、職員の主体性を尊重し、業務改善や介護に関わる知識と技術の習得を行っている。介護職員の人材確保が難しい中で、職員の業務負担を軽減する為に、利用者の食事について見直しを行い、手作りから外部発注に変更した。変更に伴い、利用者の役割や貴重な体験が失われてしまう事から、職員の意見をもとに、おやつやカレーを手作りするレクリエーションを取り入れた。また、事業所のベランダは、いつでも利用者が開けることができ、日向ぼっこができる椅子を用意している。利用者の行動や、居室内のプライバシーは、利用者を中心として決定や管理をするように努めており、身体拘束をしないケアの工夫や、プライバシーを尊重した取り組みを行っている。

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気を大切にします ・地域の人との交流を心がけます ・明るい笑顔を絶やさないうころがけます 上記の事業所理念を朝礼時に唱和し、職員全員が常日頃から心がけるよう確認している。	管理者自らが、理念を実践した行動で職員の模範となって示し、理念を可視化して共有し、理解できるように取り組んでいる。利用者と職員の距離感や雰囲気づくりを大切に、家族に近い関係が構築できるように、一人ひとりに合わせた言葉遣いで対応できるように努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	月一回の町内幹事会に参加し、町内の方々との交流、情報把握に努めている。地域行事にも利用者、職員ともに参加するように努めている。また、日頃から近隣住民の方々への積極的な挨拶を心がけている。	町内の方が事業所敷地内の樹を切ってくれるなど日頃から事業所の様子を気にかけてくれ、町内会から情報提供や資料配布、行事への参加に声をかけてくれる。職員や利用者や地域の方は顔見知りであり、気軽に声をかけ挨拶をすることで日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地区社協主催の認知症カフェへの参加協力や学生ボランティア受け入れなどを行い、地域における認知症の人への理解を深める活動を行っている。昨年度からは管理者が認知症アドバイザーとして地域の学校で活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会長、民生委員、包括支援センター職員、利用者、ご家族様などにご参加いただき、様々な視点からのご意見を頂きながらサービスの質向上、事業所の理解などに努めている。	運営推進会議は、新型コロナウイルスの感染状況に応じて開催又は、書面で開催している。事業所内部や、利用者の様子は毎月発行している広報誌と報告書を家族と関係者に送付している。利用者家族からお礼の言葉をもらう事が多く、サービスの質を維持することに力を尽くしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	広島市介護保険課、東区健康長寿課、広島市総合社会福祉センターなどに相談や連絡をとり、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活課担当者の訪問面談は年に1回実施している。地域包括支援センターから依頼があり、認知症サポーター養成講座の講師を行い、管理者が具体的な経験を参加者へ伝える事で認知症の啓発活動にも繋がっている。地域情報や活動参加の促しは地域包括支援センターから助言を受けている。	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルを作成し、法人全体での研修や実践を通じて学習を継続しながら、身体拘束を行わない介護をおこなっている。また、事業所内でも定期的な勉強会を開催している。</p>	<p>年に2回、法人主催の研修を実施している。利用者の行動を制限せず、見守りながら様子を観察することで、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。利用開始時に利用者、家族に事業所の方針や、行動制限をしない事から起こり得る転倒リスクを説明している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止に関するマニュアルを作成し、法人全体での研修や実践を通して学習を継続し、職員全体に虐待防止を周知徹底している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>包括支援センターを通じて権利擁護における理解を深め、必要に応じて助言を頂きながら制度の活用が適切に行えるように努めている。事業所内にも成年後見制度を利用されている方がおり、実践を通じて学ぶ機会を持つことが出来ている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時等には、利用者のご家族に同席して頂き、読み合わせを行っている。重要事項などポイントとなる箇所や疑問点がある時はご納得頂けるまで説明し理解していただけるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関先にご意見・ご要望を承る為の用紙を設置し、様々なご意見を頂けるような取り組みを行っている。また、ご家族が来設された際などは積極的に関わりを持ち管理者・職員に対して気軽に意見や要望が伝えられるような関係性づくりに努めている。</p>	<p>家族の意見や要望は、面会や電話の際に、利用者の状況報告をしながら確認するようにしている。自宅に帰りたい利用者の気持ちに寄り添い、事業所と家族が連携して週に1日は自宅で過ごせるように工夫して対応した例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人全体の職員会議や主任会議を通じて様々な意見や提案を聞くための機会を設けている。また、必要に応じて、管理者による個人面談を行い、個別での意見聴取ができる機会も設けている。	管理者は、普段から職員と関わる機会を多く持つように工夫しており、職員から発信された意見は柔軟に取り入れている。職員の意見から、業務を見直し改善しただけではなく、業務改善に伴う利用者の不利点を補うアイデアも提案し、運営に反映した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が働きやすい環境を作る為、公休以外の希望する休みに配慮し、個別の意向に沿った休日確保ができるよう努めている。また、有給取得率向上の為、計画的な有給取得の取り組みに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での研修だけでなく、職員が希望する外部研修にも参加出来る環境づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の他事業所との交流を深め、情報交換等により、サービスの質向上に努めている。また、認知症対応型通所介護の運営を通じて、居宅ケアマネとの連携やサービス担当者会議での他事業所との交流機会を得ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始の段階から利用者本人と積極的なコミュニケーションを図り、関係性を深めることで不安の軽減や安心感の確保ができるよう努めている。また、サービスに関するご要望には可能な限りお応えできるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用開始の段階からご家族に以前の利用者本人の生活歴などの聞き取りを十分に行ない、ご家族が感じる不安の軽減やサービス上でのご要望に可能な限りお応えできるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>サービス利用開始の段階で利用者本人とご家族からの聞き取りを充分に行ない、ニーズを把握したうえで職員全体でアセスメントを行いながら必要としている支援の見極めに努めている。また、必要に応じて他のサービス利用も行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>アセスメントシートや日々の利用者との関わりの中で以前の生活歴を把握し、生活をしていくうえで出来そうなことを職員と共に言い、一方的な関係にならないよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人様の日々のご様子を面会時や電話連絡、毎月郵送させて頂く現状報告書にてお伝えし、本人様とご家族の関係性が途切れないように努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>行きつけの店や最寄りの郵便局、かかりつけの病院などに同行し、本人様が長く関わってこられた関係が途切れないよう支援に努めている。また、必要時応じて一時帰宅や自宅への外泊などを実施し、リロケーションダメージの軽減にも努めている。</p>	<p>利用者の馴染みの店や、食べ慣れた嗜好品を取り扱っている商店に、利用後も買い物に行ったり、行動制限がある期間は職員が買い物を代行し、店の人に利用者からの頼まれごとであることを伝えることで、関係を継続できるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事や体操、レクリエーションの時間を通じて利用者同士が関わり合いを持てるよう努めている。また、家事などを利用者同士で協力、分担して手伝って頂くことでより深く関わり、共に生活を支え合える関係が作れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了後も関係性を大切にするため、日々の関わりから気軽に相談をして頂けるような関係性を作れるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の利用者との生活の中で積極的にコミュニケーションを図り、本人様の思いを引き出せるよう努めている。また、関わりの中での気づきを職員間で共有し支援につなげていけるよう「気づきノート」を活用している。	日々表出される利用者の言葉や思いは、受け取った職員が気づきノートに書き留めて共有し、思いの実現に向けてどのように支援していくのか、他の職員の意見を募りながら試行錯誤して反映している。意見の表出が困難な利用者は、表情や行動、家族からの情報を得て検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートの活用や利用者、ご家族、担当ケアマネ、関係者からの聞き取りを行い、これまでの記録を振り返りながら経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の申し送りや毎月のミーティング、ノートなどを活用し、職員間の情報共有を密接に行ないながら、利用者が安心して生活を送れるよう、切れ目のない現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングシートを活用し、ニーズの把握、統一した日々の支援が行えるよう努めている。また、課題分析を継続して行いながら、関係者の様々な視点からの意見やアイデアが適切に反映できるような環境づくりに努めている。	毎日モニタリングを行い、実施状況を記録している。状態に応じて訪問マッサージや自費の訪問リハビリを提案し希望により導入している。計画には、利用者の馴染みや好み、行きたい場所やしたい事を取り入れて、その人らしく暮らせる工夫を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録だけでなく日々の申し送り、「気づきノート」などを活用しながら職員間で積極的な情報交換・共有を行い、実践や介護計画の見直しが随時行えるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	様々なニーズに柔軟な対応ができるように事業所だけでなく、地域やその他外部との幅広い交流を模索しながら、多様な方向からの支援が行なえる様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	包括支援センターや社会福祉協議会、町内会などを通じて、利用者のニーズに応じた地域資源の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人様、ご家族の意向を確認し、入所後のかかりつけ医を決めている。希望されたかかりつけ医と適時相談を行いながら関係を構築し、適切で迅速な医療の提供が行えるよう努めている。	利用開始時に、これまでのかかりつけ医の継続受診が可能であることを伝え、協力医療機関を受診する利点も伝え、利用者、家族が希望した医師の診察を受けている。家族が高齢や都合で通院への付き添いができない場合は、職員が同行し、利用者の情報は書面や電話、口頭で伝えている。	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日々の申し送りや「気づきノート」などを通じて職場内の看護職員との情報共有を密接におこない、個々の利用者に応じた医療・看護が適時提供できるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時に利用者の状態を詳細に伝達し、安心して治療し早期退院ができるよう努めている。また、入院中は病院関係者からの現状報告や入院先への訪問などを行い、随時治療経過の把握に努めている。退院時期についても連携室、主治医との連携を図りながら、本人様にとって最善の退院時期を検討している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>サービス利用開始前や状態悪化時に終末期の在り方について利用者・ご家族の意向、かかりつけ医の意見などを聞き取りし、方針を共有している。支援の方向についても職員を含めた話し合いを必要に応じて行っている。</p>	<p>利用契約時と、看取り介護を行う際には、看取りに関する指針について説明し、看取り介護についての同意を書面で得ている。事業所でできる事を説明し、多くの利用者が協力医療機関での看取りを選択している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>日々の業務の中で、適時看護職員により応急手当や初期対応等の助言・訓練を行っている。また、法人内の研修を通じても同様に行なっている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>日勤帯、夜間帯を想定した消防訓練を年2回以上行い、消防署の職員立ち合いの訓練を年1回行っている。事業所の立地が土砂災害の警戒区域内でもあるため、地域の方や隣接する施設にも協力を頂き、災害時における協力体制の構築に努めている。</p>	<p>直近の避難、救出訓練は夜間の火災を想定してユニット毎に実施している。地域との協力体制については課題と感じており、地域包括支援センターから紹介された、地域の災害コミュニティへ管理者が参加した事で、地域と新しい繋がりを構築し、体制づくりに向けて前進している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常日頃から利用者の人格、プライバシーの尊重に心がけ、職員間で意識しあえるように努めている。限られたスペースの中でも可能な限りプライバシーが確保できるよう対応を工夫している。また、法人内でも接遇やプライバシー保護の研修を行っている。	法人が主催する研修に全職員が参加している。排泄誘導を行う際は、小さめの声で丁寧な言葉で伝えるように努めている。利用者の居室は個人の空間であり、衛生面の問題や危険がない場合は利用者の主体性を尊重して管理し、職員が干渉しすぎないように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者との日々の関わりを密接に行ない、信頼関係を築きながら本人様が気兼ねなく思いや希望を表せる関係性づくりに努めている。個々の認知機能に応じて、本人が選択をできるような働きかけの配慮を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員間の情報共有を積極的に行ない、個々の利用者の日々の状態を適切に判断しながら、利用者の希望や状態にあわせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類購入の際に職員が同行するなど、本人様の意思を尊重して支援している。また、本人様の選択が難しい場合でもこれまでの生活歴やご家族様からの聞き取りによりニーズを把握し、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	フロア備え付けのキッチンで利用者に近い場所で調理を行い、香りや音を感じて頂くことで準備段階から食事を楽しんで頂けるよう努めている。また、野菜の皮むきや片付けなどを手伝って頂き、食事を通じて生活意欲を向上して頂けるよう支援している。また、食欲が湧くような配膳の工夫を心がけている。	利用者の嗜好はアセスメントから抽出し、行事や手作り昼食の献立を立てる際に取り入れている。同一法人の他事業所から貰った野菜を利用者と調理したり、近所の方から貰った柿を干し柿にするなど、利用者と職員が協働しながら楽しむように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>日々の食事量や水分量を記録し、個々の利用者の状態や習慣に合わせた食事や水分が適切に提供できるよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、個々の利用者の状態に合わせた口腔ケアを行っている。また、嚥下や食事量の変化を観察し、必要に応じて協力歯科に相談し、定期的な歯科往診を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を活用し、個々の利用者の排泄パターンを把握するとともに状態に合わせた排泄の支援に努めている。排泄用具の使用による皮膚トラブル等にも注意し、必要に応じて布パンツの使用にも努めている。</p>	<p>一人ひとりの様子を細かく観察し、利用者ごとに適した排泄の方法や下着となるように工夫している。生活の流れを尊重し、排泄だけに着目し過度に声をかけたがり、精神的な負担とならないように配慮している。歩行能力に応じて居室の環境を整備することで排泄の自立を支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄表を活用し、個々の利用者の排便状況の把握に努めている。便秘傾向の方には果物や乳製品等の提供を行ったり、かかりつけ医相談のうえで状態に応じた下剤の処方をして頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>利用者本人の希望、心身状態に合わせて、シャワー浴・足浴・清拭・同性介助などその都度本人様の希望に応じた支援を行い、入浴を楽しんで頂けるよう努めている。</p>	<p>入浴が苦手な利用者の心理的負担を少なくするために、浴室壁に富士山の写真を飾り話題として活用している。利用して間もない利用者は、自宅で入浴していた時間に入れるように工夫したことで、帰宅願望が消失した実例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>利用者本人の希望、心身状態などに合わせ、その都度休息や安眠をして頂けるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>看護職とかかりつけ医、薬剤師が情報共有し、介護職員に薬の必要性、危険性などについての説明を適時行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>利用者個々の希望や生活歴の把握に努め、運動、家事、歌などそれぞれに合わせた役割や楽しみごとを見つけ活気のある生活を送っていただけるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>利用者個々の希望に合わせ、買い物、散歩、理美容、行事参加などの外出支援を行っている。また、ご家族の協力を得て外食や帰宅・外泊を気兼ねなくできるよう支援している。</p>	<p>日常的にベランダで歩行練習や、育てている野菜に水やりをする等して外気に当たっている。イルミネーションを車内から眺めたり、近くの神社に花見に出かけ参拝する等、車いすの利用者も普段でかけられない場所へ外出できるように支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>利用者の状態に応じてお金を持って買い物ができるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者の希望に応じて、ご家族や知人など大切な人との手紙や電話でのやり取りができるよう支援している。個人で携帯電話や通信機器を持ち、ご家族と頻繁に連絡をされている利用者もおられる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者と職員で共同制作した作品の掲示や季節ごとの飾り付けを行い、季節感を感じて頂けるような工夫をしている。</p>	<p>居間には、季節を感じられる作品を展示し、湿度調整や定期的な換気と清掃を行っている。消臭芳香剤が定期噴霧される機器を複数個所に取り付け、臭い対策も実施しており居心地良く過ごせるように工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>テーブル席を複数配置し、個々の利用者が思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ベッドなどの備え付けのもの以外のタンスや布団、置物などは使い慣れたものや馴染みのものを持ち込んで頂き、居心地よく安心して過ごして頂けるよう工夫している。</p>	<p>居室には、利用者が使い慣れた布団や、思い出のある人形等の馴染みがある好みの物を利用したり、配置することで居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者個々の残存機能の把握に努め、居室の位置などを配慮している。また、通路などの歩行スペースに手すりを設置し、フロア内を安心して歩行できるよう配慮している。各居室内にトイレ、洗面台が設置しており、個々の状態に応じて可能な限り自立した生活が送れるような配慮をしている。</p>		

V アウトカム項目(1Fユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気を大切にします ・地域の人との交流を心がけます ・明るい笑顔を絶やさないよう心がけます 上記の事業所理念を朝礼時に唱和し、職員全員が常日頃から心がけるよう確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	月一回の町内幹事会に参加し、町内の方々との交流、情報把握に努めている。地域行事にも利用者、職員ともに参加するように努めている。また、日頃から近隣住民の方々への積極的な挨拶を心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地区社協主催の認知症カフェへの参加協力や学生ボランティア受け入れなどを行い、地域における認知症の人への理解を深める活動を行っている。昨年度からは管理者が認知症アドバイザーとして地域の学校で活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会長、民生委員、包括支援センター職員、利用者、ご家族様などにご参加いただき、様々な視点からのご意見を頂きながらサービスの質向上、事業所の理解などに努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	広島市介護保険課、東区健康長寿課、広島市総合社会福祉センターなどに相談や連絡をとり、協力関係を築くように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルを作成し、法人全体での研修や実践を通じて学習を継続しながら、身体拘束を行わない介護をおこなっている。また、事業所内でも定期的な勉強会を開催している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止に関するマニュアルを作成し、法人全体での研修や実践を通して学習を継続し、職員全体に虐待防止を周知徹底している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>包括支援センターを通じて権利擁護における理解を深め、必要に応じて助言を頂きながら制度の活用が適切に行えるように努めている。事業所内にも成年後見制度を利用されている方がおり、実践を通じて学ぶ機会を持つことが出来ている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時等には、利用者のご家族に同席して頂き、読み合わせを行っている。重要事項などポイントとなる箇所や疑問点がある時はご納得頂けるまで説明し理解していただけるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関先にご意見・ご要望を承る為の用紙を設置し、様々なご意見を頂けるような取り組みを行っている。また、ご家族が来設された際などは積極的に関わりを持ち管理者・職員に対して気軽に意見や要望が伝えられるような関係性づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人全体の職員会議や主任会議を通じて様々な意見や提案を聞くための機会を設けている。また、必要に応じて、管理者による個人面談を行い、個別での意見聴取ができる機会も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が働きやすい環境を作る為、公休以外の希望する休みに配慮し、個別の意向に沿った休日確保ができるよう努めている。また、有給取得率向上の為、計画的な有給取得の取り組みに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での研修だけでなく、職員が希望する外部研修にも参加出来る環境づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の他事業所との交流を深め、情報交換等により、サービスの質向上に努めている。また、認知症対応型通所介護の運営を通じて、居宅ケアマネとの連携やサービス担当者会議での他事業所との交流機会を得ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始の段階から利用者本人と積極的なコミュニケーションを図り、関係性を深めることで不安の軽減や安心感の確保ができるよう努めている。また、サービスに関するご要望には可能な限りお応えできるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用開始の段階からご家族に以前の利用者本人の生活歴などの聞き取りを十分に行ない、ご家族が感じる不安の軽減やサービス上でのご要望に可能な限りお応えできるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>サービス利用開始の段階で利用者本人とご家族からの聞き取りを充分に行ない、ニーズを把握したうえで職員全体でアセスメントを行いながら必要としている支援の見極めに努めている。また、必要に応じて他のサービス利用も行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>アセスメントシートや日々の利用者との関わりの中で以前の生活歴を把握し、生活をしていくうえで出来そうなことを職員と共に行い、一方的な関係にならないよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人様の日々のご様子を面会時や電話連絡、毎月郵送させて頂く現状報告書にてお伝えし、本人様とご家族の関係性が途切れないように努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>行きつけの店や最寄りの郵便局、かかりつけの病院などに同行し、本人様が長く関わってこられた関係が途切れないような支援に努めている。また、必要時応じて一時帰宅や自宅への外泊などを実施し、リロケーションダメージの軽減にも努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事や体操、レクリエーションの時間を通じて利用者同士が関わり合いを持てるよう努めている。また、家事などを利用者同士で協力、分担して手伝って頂くことでより深く関わり、共に生活を支え合える関係が作れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了後も関係性を大切にするため、日々の関わりから気軽に相談をして頂けるような関係性を作れるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の利用者との生活の中で積極的にコミュニケーションを図り、本人様の思いを引き出せるよう努めている。また、関わりの中での気づきを職員間で共有し支援につなげていけるよう「気づきノート」を活用している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートの活用や利用者、ご家族、担当ケアマネ、関係者からの聞き取りを行い、これまでの記録を振り返りながら経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の申し送りや毎月のミーティング、ノートなどを活用し、職員間の情報共有を密接に行ないながら、利用者が安心して生活を送れるよう、切れ目のない現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングシートを活用し、ニーズの把握、統一した日々の支援が行えるよう努めている。また、課題分析を継続して行いながら、関係者の様々な視点からの意見やアイデアが適切に反映できるような環境づくりに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録だけでなく日々の申し送り、「気づきノート」などを活用しながら職員間で積極的な情報交換・共有を行い、実践や介護計画の見直しが随時行えるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	様々なニーズに柔軟な対応ができるように事業所だけでなく、地域やその他外部との幅広い交流を模索しながら、多様な方向からの支援が行なえる様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	包括支援センターや社会福祉協議会、町内会などを通じて、利用者のニーズに応じた地域資源の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人様、ご家族の意向を確認し、入所後のかかりつけ医を決めている。希望されたかかりつけ医と適時相談を行いながら関係を構築し、適切で迅速な医療の提供が行えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の申し送りや「気づきノート」などを通じて職場内の看護職員との情報共有を密接におこない、個々の利用者に応じた医療・看護が適時提供できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に利用者の状態を詳細に伝達し、安心して治療し早期退院ができるよう努めている。また、入院中は病院関係者からの現状報告や入院先への訪問などを行い、随時治療経過の把握に努めている。退院時期についても連携室、主治医との連携を図りながら、本人様にとって最善の退院時期を検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	サービス利用開始前や状態悪化時に終末期の在り方について利用者・ご家族の意向、かかりつけ医の意見などを聞き取りし、方針を共有している。支援の方向についても職員を含めた話し合いを必要に応じて行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日々の業務の中で、適時看護職員により応急手当や初期対応等の助言・訓練を行っている。また、法人内の研修を通じて同様にこなしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日勤帯、夜間帯を想定した消防訓練を年2回以上行い、消防署の職員立ち合いの訓練を年1回行っている。事業所の立地が土砂災害の警戒区域内でもあるため、地域の方や隣接する施設にも協力を頂き、災害時における協力体制の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常日頃から利用者の人格、プライバシーの尊重に心がけ、職員間で意識しあえるように努めている。限られたスペースの中でも可能な限りプライバシーが確保できるよう対応を工夫している。また、法人内でも接遇やプライバシー保護の研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者との日々の関わりを密接に行ない、信頼関係を築きながら本人様が気兼ねなく思いや希望を表せる関係性づくりに努めている。個々の認知機能に応じて、本人が選択をできるような働きかけの配慮を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員間の情報共有を積極的に行ない、個々の利用者の日々の状態を適切に判断しながら、利用者の希望や状態にあわせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類購入の際に職員が同行するなど、本人様の意思を尊重して支援している。また、本人様の選択が難しい場合でもこれまでの生活歴やご家族様からの聞き取りによりニーズを把握し、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	フロア備え付けのキッチンで利用者に近い場所で調理を行い、香りや音を感じて頂くことで準備段階から食事を楽しくして頂けるよう努めている。また、野菜の皮むきや片付けなどを手伝って頂き、食事を通じて生活意欲を向上して頂けるよう支援している。また、食欲が湧くような配膳の工夫を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>日々の食事量や水分量を記録し，個々の利用者の状態や習慣に合わせた食事や水分が適切に提供できるよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後，個々の利用者の状態に合わせた口腔ケアを行っている。また，嚥下や食事量の変化を観察し，必要に応じて協力歯科に相談し，定期的な歯科往診を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を活用し，個々の利用者の排泄パターンを把握するとともに状態に合わせた排泄の支援に努めている。排泄用具の使用による皮膚トラブル等にも注意し，必要に応じて布パンツの使用にも努めている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄表を活用し，個々の利用者の排便状況の把握に努めている。便秘傾向の方には果物や乳製品等の提供を行ったり，かかりつけ医相談のうえで状態に応じた下剤の処方をして頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>利用者本人の希望、心身状態に合わせ、シャワー浴・足浴・清拭・同性介助などその都度本人様の希望に応じた支援を行い、入浴を楽しんで頂けるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	利用者本人の希望、心身状態などに合わせ、その都度休息や安眠をして頂けるよう支援している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	看護職とかかりつけ医、薬剤師が情報共有し、介護職員に薬の必要性、危険性などについての説明を適時行っている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	利用者個々の希望や生活歴の把握に努め、運動、家事、歌などそれぞれに合わせた役割や楽しみごとを見つけ活気のある生活を送っていただけるよう支援している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	利用者個々の希望に合わせ、買い物、散歩、理美容、行事参加などの外出支援を行っている。また、ご家族の協力を得て外食や帰宅・外泊を気兼ねなくできるよう支援している。		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	利用者の状態に応じてお金を持って買い物ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者の希望に応じて、ご家族や知人など大切な人との手紙や電話でのやり取りができるよう支援している。個人で携帯電話や通信機器を持ち、ご家族と頻りに連絡をされている利用者もおられる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者と職員で共同制作した作品の掲示や季節ごとの飾り付けを行い、季節感を感じて頂けるような工夫をしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>テーブル席を複数配置し、個々の利用者が思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ベッドなどの備え付けのもの以外のタンスや布団、置物などは使い慣れたものや馴染みのものを持ち込んで頂き、居心地よく安心して過ごして頂けるよう工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者個々の残存機能の把握に努め、居室の位置などを配慮している。また、通路などの歩行スペースに手すりを設置し、フロア内を安心して歩行できるよう配慮している。各居室内にトイレ、洗面台が設置しており、個々の状態に応じて可能な限り自立した生活が送れるような配慮をしている。</p>		

V アウトカム項目(2Fユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光明早稲田

作成日 令和5年2月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍が続き、以前に比べ、地域交流をする機会が減少している。	様々な形で交流の機会を確保し、地域内で事業所への理解を深めて頂ける活動に努める。	町内会や地域行事等に積極的に参加し、認知症サポーター養成講座を通じて地域の学校等とも交流を図る。	1年
2	10	コロナ禍における面会制限や外出機会の減少により、利用者や家族の意見反映が困難になっている。	状況に応じて柔軟な対応を模索し、可能な限り意見反映ができるよう努める。	アンケート調査などを通じて、現状における利用者や家族の事業所に対する意見を把握する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。